自宅を民具資料館に

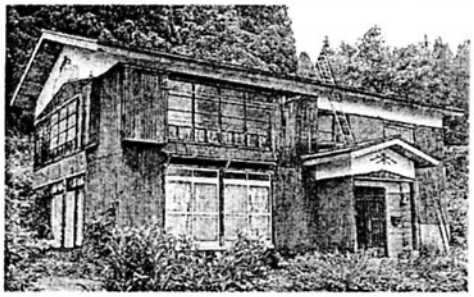
◆十日町市◆　「鉢の石仏」に近い尾身ミノさん(79)＝写真＝の自宅が、「石仏・語らいの家」と名付けて、2階に古い民具を展示した「明治・大正・昭和の館」として31日正午まで一般に開放されている。

尾身さんは、木びき職人だった夫の使った道具や明治から昭和の民具、調度品などを保存、収集してきた。30歳代で夫を亡くした後、小学校の給食の仕事の傍ら母子家庭の相談員をし、3人の子供を育てた。人と接するのが好きな尾身さんは、老後に代々の生活用具などを展示する構想を描いていたが、4年前に脳出血で倒れた。

尾身さんの思いを実現させ、資料館開館に協力したのは立教大学の卒業生たち。30年余り前、石仏の調査で訪れ、尾身さん宅に民泊したのが縁で親交が続いていた。卒業生の一人、門脇洋子さん(58)は「みんなの第二の故郷。尾身さんの願いは何としても実現したかった」と振り返る。

尾身さんは現在、新潟市でリハビリ中で、「お客さんに会えないのが残念。自宅や集落が観光客でにぎわうのは大歓迎なので、ぜひ、たくさんの方に足を運んでほしい」と話す。問い合わせは、語らいの家（025・757・0713）。ホームページ（http://www.geocities.jp/minosandougu/）

（伴しのぶ）



資料館として開放している尾身さんの自宅

ほのぼの@タウン　＊タウンリポーターのコーナー